

# 調査報告書に新たに盛り込んだ主なポイント

- ◆ 依存傾向「高」(4.6%)の生徒のソーシャルメディア利用時間は、Twitter(171.0分)が最長で全体平均(78.6分)の2倍以上。LINE(137.6分)も全体平均(80.9分)より50分以上利用時間が長い。
  - 依存傾向「高」の生徒のTwitter、LINEの利用時間は、依存傾向「中」と比較しても顕著に長い。
- ◆ 依存傾向「高」の生徒の家庭の方が、スマートフォン購入時点で利用に関するルールを設けている割合が高い。ルールのあり方や運用に課題がある可能性あり。
  - 依存傾向「高」の生徒は、スマートフォン購入時点で、「利用時間帯を制限している」(12.1%)、「利用時間の上限を決めている」(8.5%)、「成績が下がったら利用を制限する」(15.5%)が全体平均の2倍前後。依存傾向「高」の生徒の方が、親が利用時間や利用を制限するルールを設けた上で購入している。しかしながら、購入後、割合が大きく低下。
- ◆ 依存傾向「高」の生徒は、身近な人間関係や社会生活について不満を有している割合が顕著に高い傾向。このような層は、現実からの逃避先としてネットを選んでいる可能性あり。
  - 依存傾向「高」の生徒は、「学校生活」、「親」、「友だち」についての「不満・計」(「やや不満」「不満」の合計)が、それぞれ42.3%、26.5%、18.9%と、全てについて全体平均の2倍以上。
  - 依存傾向「高」の生徒は、対人関係が比較的希薄と意識し、充実した人間関係を形成していると感じている割合が低い。
  - ソーシャルメディアの利用目的において、「現実から逃れるため」「ストレス解消のため」「新たな友だちを作るため」の該当率が顕著に高く、現実からの逃避先としてネットを選んでいる可能性。
- ◆ 依存傾向が高いほどネットの利用シーンや、利用マナー、コミュニケーションなどにおいて、不適切な利用への該当率が高くなり、依存傾向「高」では特にその傾向が顕著。
  - 「歩きながら」(65.7%)、「自転車に乗りながら」(24.5%)などの危険利用、「自宅で勉強しながら」(59.3%)といった勉強の能率に影響する利用や、「肩越しに他人のディスプレイ画面や入力した情報を盗み見たことがある」(34.6%)、「自分の性別や年齢をいつわって、書き込みしたり、登録したことがある」(29.0%)等が全体平均より顕著に高い。
- ◆ なお、依存傾向「高」の一部(10%超)は、学校で履修する科目(英語・数学・国語)について「得意」と回答しており、全体平均以上の割合。